

山科・醍醐地域で「育ちあう、響きあう」

地域連携型教育プログラム

2018.7.28

京都橘大学

○活動

本学の地域連携型教育プログラムは「地域で学び、地域で鍛えられる」を理念としており、今回本学が取り組む学まち連携大学促進事業「山科・醍醐地域で「育ちあう、響きあう」」は、以下の3つの基幹課題と7つのプログラムを設定し、各学部学科の特性を生かし、それぞれの課題に対応する取組を展開してきました。

なかでも看護学部の「看護お助け隊」は多くのメディアで取り上げられ、また現代ビジネス学部のこだわり店舗紹介冊子『こだわり市場』制作は、制作した冊子を用いて地域の介護施設との連携事業「高齢者ツーリズム」に発展するなど、目標以上の成果を上げてきました。

また、学外の拠点として醍醐中山団地に開設した「地域連携センター分室」および、山科駅近くに開設した京都橘大学サテライト・ラボラトリー「たちラボ山科」においてもさまざまな活動を行い、地域とのつながりを着実に深めてきました。

基幹課題1：暮らしの安心・安全、健康・福祉、育ちあい

プログラム①：防災・安心・安全

プログラム②：高齢者・地域住民の健康増進

プログラム③：子育て支援、心のケア

基幹課題2：地域（経済）振興、まちづくり

プログラム④：地域（経済）振興・商店街振興

プログラム⑤：地域環境の再評価と経済文化の創出

基幹課題3：地域文化・歴史の継承、観光振興

プログラム⑥：地域文化・歴史の継承

プログラム⑦：地域観光振興

○推進体制

この活動は、学長を長とする「産学公地域連携推進機構」が統括し、全学的に推進しています。これらの活動をスムーズに推進するための体制として、「学まち連携大学促進事業推進委員会」を組織しました。全学6学部13学科から選出された委員からなるこの会議を年3回開催し、各プログラムの進捗報告、情報共有を行っています。

○効果検証

各プログラムが学生に及ぼす効果の検証のために、授業アンケート、成長実感アンケートを行っています。これらの方法により、地域を学ぶプログラムの満足度や地域理解の深まりを検証しています。また2016年度からは1、3回生に対してアセスメントテストを実施し、学生のリテラシー（学力）とコンピテンシー（行動力）についての成長度を測定しています。

また、2018年度からは外部委員からなる「京都橘大学産学公連携懇話会（仮）」を立ち上げ、本事業への提言と評価を得る予定です。

○発信

これらの地域連携活動実績をとりまとめた冊子、「地域連携型教育プログラム」実績集（「学まち連携大学」促進事業実績集）を毎年度末に発刊しています。また、2018年3月には地域連携イベント「橘セッション-異文化を学び、考え、そして食べる-」を開催し、地域住民および教職員・学生に対し、各プログラムの担当者から報告を行いました。そのほか、大学ホームページ、フェイスブック等でも随時発信しています。

